



# SG

## REPORT

### 第60回 ボートレースクラシック

3/25~30 ボートレース若松



優勝戦1周2マーク



同期の仲谷颯仁、豊田健士郎との水神祭

### 機力超抜の佐藤隆太郎が逃げ快勝 重圧に打ち勝ちSG初優出初優勝

2025年最初のSGボートレースクラシック。今回の舞台は初開催の若松。パワー差が非常に大きなシリーズで、隠れエースとも言べき30号機の佐藤隆太郎が予選トップ通過を果たした。はじめは伸びが目立っていたが、中盤以降は出足関係の仕上がりも良く、最終的には3拍子揃った節イチクルスのパワーとなった。

地元で気合いパンパンの西山貴浩が2位。SGではいつも引きが悪いが、今回は若松四天王とも称されるパワーモーターのうちのひとつ34号機を手を大活躍。予選ラストで3着以上であればトップ

だったが、4着に敗れ、悔しい2位となった。そして選考順位が52番目で予選中の1号艇がなかった池田浩二が3位。この3人が準優勝戦の1号艇を手にした。

準優勝前に急に向かい風が強まり、波乱が続いた。9Rではインの池田が起こしで鳴いてスタートで遅れてしまい、新田雄史がまくり攻めに出たところを久田敏之がまくり差して先行。しかし、2マークで新田が久田に突進気味になって逆転したのだが、これが不良航法と判定され賞典除外。2着に塩田北斗が入線し、3着の池田が繰り上がり優出となった。

## 9R準優勝戦

着順	艇番	予想	選手名	進入	ST
1	②	△	新田 雄史	2	21
2	③	○	塩田 北斗	3	19
3	①	◎	池田 浩二	1	32
4	④		久田 敏之	4	23
5	⑤	×	桐生 順平	5	21
6	⑥		原田 幸哉	6	19

2連単 ②-③ 6510円 13番人気 抜き

3連単 ②-③-① 14440円 30番人気

## 10R準優勝戦

着順	艇番	予想	選手名	進入	ST
1	①	◎	西山 貴浩	1	06
2	②	○	馬場 貴也	2	11
3	③		上野真之介	3	08
4	⑤	×	仲谷 颯仁	5	16
5	⑥	△	島村 隆幸	6	13
6	④		吉川 元浩	4	09

2連単 ①-② 290円 1番人気 逃げ

3連単 ①-②-③ 750円 1番人気

## 11R準優勝戦

着順	艇番	予想	選手名	進入	ST
1	①	◎	佐藤隆太郎	1	25
2	④	×	宮地 元輝	4	25
3	②	△	茅原 悠紀	2	27
4	⑥		船岡洋一郎	6	22
5	③	○	前田 将太	3	29
失	⑤		深井 利寿	5	23

2連単 ①-④ 810円 4番人気 逃げ

3連単 ①-④-② 1760円 7番人気

## 優勝戦メンバー

予想	艇番	選手名	F・L	モーター			今回成績				
							1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
				一般	本誌	出	行	伸	コース・スタートタイミング		
◎	◎	① 佐藤隆太郎		◎	☆	☆	① -09	①④ 四09六15	② 二13	② 三03	① -25
△	○	② 西山 貴浩	F	◎	◎	◎	③① 四04三09	③ 五06	① -17	①④ 二15三06	① -06
○	×	③ 馬場 貴也		◎	○	○	⑥ 四15	①① 三08-12	② 五34	④③ 五13二14	② 二11
×	△	④ 塩田 北斗	F	☆	☆	◎	② 二09	② 五12	③⑤ 三13四11	① 三01	② 三19
		⑤ 宮地 元輝		○	○	○	②⑤ 二11五05	④ 四06	② 六01	③① 三11-11	② 四25
		⑥ 池田 浩二	F	◎	◎	○	② 五16	② 二05	②③ 三12四22	② 三12	③ -32

### 展示速報での採点

#### 12R

- 1 佐藤隆太郎 ☆☆☆★
- 2 西山 貴浩 ☆☆☆☆
- 3 馬場 貴也 ☆☆☆★
- 4 塩田 北斗 ☆☆☆☆☆
- 5 宮地 元輝 ☆☆☆
- 6 池田 浩二 ☆☆☆

\*当日のスマホマクルで配信したものです

## 優勝戦結果

着順	艇番	予想	選手名	タイム	進入	ST
1	①	◎	佐藤隆太郎	1.47.2	1	08
2	④	△	塩田 北斗	1.48.9	4	17
3	②	○	西山 貴浩	1.50.3	2	13
4	⑤		宮地 元輝	1.50.4	5	21
5	⑥		池田 浩二		6	21
6	③	×	馬場 貴也		3	16

2連単 ①-④ 570円 3番人気 逃げ

3連単 ①-④-② 1680円 5番人気

10Rはインの西山貴浩が気迫のスタートを決めて逃げ圧勝。2着は馬場貴也で順当決着。最後の11Rは佐藤隆太郎がブイに接触して失速しながらも逃げ切り勝ち。カドからまくり差しの宮地は水しぶきが上がって躊躇してしまい、その分、佐藤には届かなかった。優勝戦、1号艇を手にしたのはSG4回目の挑戦で初優出の佐藤。機力には絶対の自信を持っているが、問題はSG優勝戦1号艇というプレッシャー。これに対しては「周りにはそう言われるが、一般戦と変わらぬ。しっかりスタートを行ってハンドルを切れば逃げられると思う」と落ち着いて答えていたのが印象的だった。それに対して西山は「ここに賭けてきたので、優勝戦は一発で仕留めます」と高らかに宣言した。当地水面を知り尽くした男が、差してよし、握って良しの自在戦で悲願達成に突き進む。



節間、不安定な風に翻弄されたが、最終日は終日、追い風3メートル前後と絶好のコンディション。進入は枠なりの3対3でずんなり折り合い、スタートはインの佐藤がコンマ08のトップスタート。1マークは誰も寄せ付けない逃げで回った瞬間に勝利が分かるほどの圧勝劇だった。2着は4コースから握って1周2マークを冷静に差した塩田北斗。3着争いは最後までもつれ、最終ターンの西山が宮地元輝を大逆転したが、ボートが接触して西山は不良航法を取られた。SG出場4回目でも初優出・初優勝した佐藤は、関浩哉、仲谷颯仁らと同期の115期。出世面では2人に遅れを取っていたが肩を並べた。またこの優勝でオールスターとグラチャンの出場権を獲得し、一躍今年の賞金戦線をリードしていく存在になった。

## 戦い終わって—

### 塩田北斗(2着)

悔しい。完敗です。スタートが全てです。伸び切りは行ったけど、0台は行かないとキツかった。フルダッシュで行きました。

### 西山貴浩(3着)

負けたけど地元のSGの優勝戦を走れてすごくいい経験になった。エンジンが出ている、自分でもここまでやれるのは分かった。強くなって8月のメモリアルに帰ってきます。

### 宮地元輝(4着)

お客さんに申し訳ないです。足に振りすぎた分3番手を守れなかった。あのへんはいつも西山さんに負けるんですね。

### 池田浩二(5着)

新品のリングを入れてペラも大幅に叩いた。足は全く悪くなかったし、これはいいエンジンだと思う。

### 馬場貴也(6着)

足が違い過ぎた。1にも4にもかなり伸びられていた。出足には自信があった。

8人出場した地元福岡支部。その中から優勝戦まで勝ち上がったのは、塩田北斗と西山貴浩。塩田は準備後の会見でこんな話をしてきた。「ふわふわするくらい嬉しい。地元でSGを走れる機会はそれほどないし、ここへ向けてしっかり準備をしてきたつもり」と思いの強さを口にした。

一方の西山、今回はシリーズの主役として一節間を戦い抜いた。しっかりと減量して臨み、初日はオレングベストを着用する51・5kg。2日目は降は重量調整なしの52・0kgちょうど。ただし、数字以上に頬がこけているようにも見え、その姿はここ若松で田頭実がSGを優勝した時の表情にも似ていた(99年オーシャンカップ)。

コメントもいつもの西山節はやや控えめで、本気モードの言葉が多かった。特に優出した際の記者会見は重圧で押しつぶされそうな胸の内を語った。「常に不安しかなくて生きているので、優勝戦も不安でしょうね。ここまで来るのに20年かかりました。若松のSG優勝

## 地元の水面を沸かせた二人 塩田北斗と西山貴浩の思い

勝戦に乗るってというのが目標でしたから。獲りたいです。グランプリと同じ2号艇ですけど、比較にならないですね。こっちの方が責任感が重いので。ここは群を抜いて声援が多いから、好きですけど、一番走りたくないレース場ですね。プレッシャーがすごい。準備勝戦に関しては、大谷翔平さんより注目度が高かったと思いますよ」。

結果は塩田が2着で西山が3着。残念ながら優勝は手にできなかったが、8月にはこの水面で再びSGが開催される。次こそはメダル表彰のセンターを奪う。



## 「東京が…」と言われてきた 強くなってもう言わせない!!

スタートに関しては？  
風が強く見えたので、放りました。それでも出ていったのは今節を通してエンジンのおかげです。

1マークのターンは？

塩田さんが見えたので、ちょっと握り気味になったんですけど、後ろを見たら誰もいなかったのホッとしました。

ゴールした時の気持ちは？

ホッとしました。まだあまり実感はないんですけど、インで勝ててよかったです。

エンジンの調整は？

回転を合わせたくらいで、舟足が一番良かったと思います。

最終日はどのように過ごした？

落ち着いていたんですけど、展示が終わったあたりから、自分の期待を感じて急に緊張し始めました。「ここを獲ると獲らないのとは大きく違うぞ」と自分にプレッシャーをかけて、強い気持ちで臨みました。

若松との相性は？

優勝をしたこともあり、当然良いんですけど、全部いいエンジン引いてるんですね。

東京支部では21年オーシャンカップ、濱野谷憲吾選手以来のSG優勝。

ずっと「東京が…」と言われているので、どうにかしたいという思いがあります。自分ももっと強く

なって、そう言われなくなれば最高だと思えます。

この優勝を誰に伝えたい？  
家族とずっとお世話になっている長田頼宗さんですね。長田さんのおかげでこれまでの選手になれたので。

今後の目標を。

グランプリに行き続けられるような選手になりたいです。





① 水神祭では関浩哉も飛び込んだ  
 ② 明暗分かれたゴールデンレーサーの毒島誠と馬場貴也  
 ③ 塩田北斗、西山貴浩、仲谷颯仁は中田達也さんと同じレーシングパンツで戦った  
 ④ 準優勝戦1着も無念の不良航法で賞典除外となった新田雄史  
 ⑤ ドリーム戦鮮やかな3コースまくりで快勝した茅原悠紀  
 ⑥ 繰り上がり俊出も準備のスタートが「情けない」と悔やむ池田浩一



⑧ 宮地元輝はインタビュで大声援を受ける人気選手に  
 ⑨ 伸びはトップクラスに仕上げた島村隆幸  
 ⑩ 馬場貴也に「滋賀の最終兵器」と称された片橋幸貴は、激アツのキリン柄がトレードマーク

